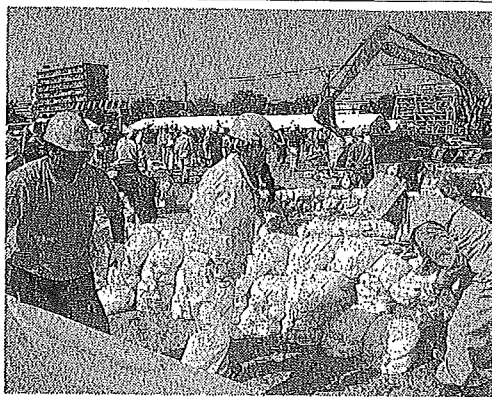


震度5想定、迅速に対応

宮坂建設工業 住民参加で防災訓練



手際よく土のうを積んだ宮坂建設工業の防災訓練

宮坂建設工業(帯広市、宮坂寿文社長)は26日、帯広市中央公園などで防災訓練を行った。同社の社員や作業員、地域住民、帯広小学校児童、帯広工業高校生徒ら延べ1200人が参加。災害に関する知識や理解を深めた。

同社は1993年から独自に防災訓練を実施。2003年以降は地域住民にも参加を呼び掛けている。

同日は午前9時、市近郊で震度5強の地震が発生したと想定。

同社内に宮坂社長を部長とする対策本部を設置し、実際に河川や建物、工事現場をパトロールした。午前11時から同公園で土のうを積み上げる水防訓練や炊き出し訓練を実施。社員らが迅速に作業にあたり、災害時の対応を確認した。

同公園では「もしも北海道グループ実行委員会」(大橋三三子代表)が防災グッズや非常食の展示・相談コーナーを設け、参加者の意識を高めた。

地震体験車に試乗した、すいせい保育所の橋本充久(所長37)は「見ると聞くとは大違い。地震が起きた時に余裕を持った対応を取ればいいが、体験してみると怖い」と話していた。(大飼裕一)